

## 第3期まち・ひと・しごと創生養老町総合戦略(案)に対する

### パブリックコメントの結果について

令和 8 年 2 月 13 日から令和8年 3 月 16 日まで、町窓口や広報紙、HP などで「第3期まち・ひと・しごと創生養老町総合戦略(案)」のパブリックコメントを行いました。パブリックコメントでいただいた質問・意見及び町の考え方(回答・対応)は、以下のとおりです。

No.	質問・意見	回答・対応
1	PDCA を回すための第2期総合戦略の結果とその考察など、総括が不足している。	<p>第2期総合戦略に基づく各施策の実施状況については、重要業績評価指標(KPI)等を用いて毎年度検証を行い、外部有識者等で構成される養老町地方創生推進委員会からの意見も踏まえて進捗管理を行ってきたところです。</p> <p>いただいたご意見については、今後の進行管理の参考とさせていただきます、KPIの達成状況等については、引き続き養老町地方創生推進委員会による評価・検証を行い、町ホームページ等にて公表します。</p>
2	人口減少は日本全体の課題であるものの、産業があれば若い人が定着し、人口減少も緩やかになると思われる。そのための企業誘致等の具体策が見えてこない。	<p>人口減少対策の基盤として、地域の産業振興と雇用の確保が重要であるとのことご意見は、町としても同様に認識しています。</p> <p>企業誘致や事業拡大の促進、町内で働く機会の確保は、関係機関との連携、用地やインフラ、担い手確保など複数の条件整理が必要となるため、町の立地特性や周辺動向を踏まえながら、実現可能な手法を検討し、戦略に位置付けた施策を着実に推進してまいります。</p>
3	休耕地を活用したハーブ栽培を起点に、養老町の名物(特産品)として産業化し、官民連携でブランド化を目指す提案。	<p>休耕地の活用や地域資源を生かした特産品づくり、官民連携によるブランディングは、地域の魅力向上や産業振興につながり得る重要な視点であると認識しています。</p> <p>いただいたご提案は、今後の取組みの検討における参考とします。</p>

No.	質問・意見	回答・対応
4	<p>養老鉄道の利用促進や地域活性化の観点から、期間限定の「養老鉄道動物園」等のアイデア提案。</p>	<p>養老鉄道の利用促進や地域活性化は重要な課題である一方、いただいたご提案については多面的な検討が必要であるため、今後の取組みの検討における参考とします。</p>

## 【意見】

・第2期の結果と第3期の目標が設定されているが、結果についての総括がない。PDCAを回すことになっているので、主体的にどのような取り組みを実施して、その結果と結果についての考察、それを踏まえて次回の取り組みの方針などの説明がないと本気度が伝わらない。

・人口減少は日本全体の課題であるものの、産業があれば若い人が定着するし、人口減少も相対的には緩やかになると思う。

そのためには能動的かつ戦略的な企業誘致等の具体策が見えてこない。本町以外の周辺自治体では、工業団地等の整備により新たな工場が建設されている。

取り組みの本気度が伝わらない。

## 第3期まち・ひと・しごと創生養老町総合戦略（案）への意見

### ◆ハーブのまち〈ようろう〉

養老にハーブをという情熱から始動している。しかしながら、まだ下準備の段階でこれからどのようにしたら具現化できるか模索中ではあるが、〈まち・ひと・しごと〉を養老の名所としてでなく名物（特産品）として、物づくりの一例となる可能性を秘めてる。

始動の段階として、先ずは船附にある1反の休耕地を利用してハーブを育てる。その次の段階としては、〈少しではなく、沢山〉を目指すことで〈まち・ひと・しごと〉のシンボルなる。

例えば、近隣では、大垣市のひまわり畑や、海津市のチューリップ、揖斐郡の薬草。

他県では、愛知県半田市の彼岸花が挙げられる。

この取り組みをさらに、産業化することで仕事が生まれる。ただ闇雲にやるのではなく経営戦略等のブランディングが必要だ。

最終的には、官民連携して、まちの名所や名物になるよう目指したい。

### ◆養老鉄道動物園（期間限定）

昨年（2025年）6月から7月にかけて、養老町で行われた「ようろう未来会議」において、岐阜県立大垣養老高等学校生徒会メンバー等4名（男子2名・女子2名）と真剣に話し合ったことも加味し、提案とする。

大垣養老高校上記参加メンバーとの話し合いで出てきた具体案であり、この期間内に、生徒が担当教師に期間限定動物実施の可能性を確認した。烏江駅から本校までのアクセスについては、オンデマンドバスとそのノウハウを利用できる。根底には、養老鉄道利用者を増やし、まちを活性化したいという高校生の熱い思いがある。はじめは、動物列車や駅前動物園等、色々な案がでたが、動物のストレスや管理を考えるとできない。それならば動物たちがいる場所を動物園として公開するのが一番だ、という考えからだ。生徒たちの将来の仕事としては、育てるだけでなく、動物を展示して、一般の人々に動物への理解を深める活動にもなり、やがては、動物園の飼育員が育つかもかもしれない。

養老鉄道と冠とするのは、養老町の鉄道インフラ整備への願いからだ。ただ要望するだけではなく、養老鉄道が儲かる仕組みを提案しないと言葉に説得力がないという理由だ。

最後に、今回提案したまち船附と烏江には、江戸時代、濃州三湊として発展したルートになることにも注目していただきたい。船附と烏江の間には、獅子舞で知られる栗笠があり、濃州三湊には、今でも湊の石碑がそれぞれ設置されている。ハーブのまち養老を船附からどこへ広げるのか、どの場所がふさわしいかも、熟考することも大切だ。

養老鉄道沿いの烏江、高田、養老とそれぞれに特徴があるまちづくりをし、北部の文楽の室原、そして、南部の宝暦治水工事役館跡の大巻に広げていけば、養老町全体、何処へ行っても楽しめるまちになる。歴史を基盤とし、それぞれの地域の特徴をいかした養老〈まち・ひと・しごと〉により、まちづくりで世界一魅力的になるよう切望している。